

令和4年9月 定例記者会見（報告）

1 日 時 令和4年9月26日（月）13時～14時

2 会 場 庁議室

3 出席者

<報道機関>読売新聞、山形新聞、河北新報、NHK、SAY、YTS、YBC

<市>市長、秘書広報課長

4 記者倶楽部からの質問事項

(1) 秋の行楽シーズンを控える中、コロナの感染状況と市民への行動要請について伺います。

先月も同様の質問をしていますが、現在の感染者数の推移を米沢市としてどのように捉えていますか。また今後市民へ求める行動についてなどをお聞かせください。

(2) 国道121号の復旧工事について、国による方針が発表されました。既に市長によるコメントも発表されていますが、地域全体および沿線の観光施設等への影響についてどのように捉えているか伺います。

特に道の駅田沢については影響が大きいと考えますが、（道の駅1カ所に限らず）補助金交付等も含めた市としての支援策についてお聞かせください。

(3) 新病院整備について伺います。

2023年秋の開院まで1年となります。工事の進捗状況及び組織の整備について、現段階でどのようになっているかお聞かせください。

(4) その他

5 内 容

○秘書広報課長

これより令和4年度9月の定例記者会見を開催いたします。本日の記者会見では、初めに市長からオクトーバー・ラン&ウォーク2022に関する情報発言があります。その後、記者クラブからいただいた事前の質問に回答させていただき、質疑に入らせていただきます。よろしくお願いいたします。

○市長

オクトーバー・ラン&ウォークですが、米沢市は今年で3回目の挑戦になります。

健康長寿日本一を目指して、食事・運動・健診この3つの大きな目標を持って取り組んでいきたいと思えます。来月10月から始まりますので、頑張らなければならないと思っています。

今回のご質問は3点ありました。まず1点目は、「秋の行楽シーズンを控える中、コロナの感染状況と市民への行動要請について伺います。先月も同様の質問をしていますが、現在の感染者数の推移を米沢市としてどのように捉えていますか。また今後市民へ求める行動についてなどをお聞かせください。」という内容です。

現在第7波といわれる中で、今週も高い感染者数が続いています。特に8月19日には過去最高の246名となるなど、驚異的なスピードで感染拡大が進んでおりましたが、9月になってからは100名以下の感染者数になっています。この要因については、皆さんご存じの通り行動制限がかからない状況の中で、お盆期間中も含めて帰省や夏休みでの旅行、レジャー等の機会が増加したからだと思えます。また、自宅療養の軽症者が多いということで家庭内感染が増えたことが、感染者が増えた要因なのだと思います。

山形県におきましても、9月14日から全数把握の見直しを行い、市町村別の感染者数を公表しないということになりました。現在、基礎疾患をお持ちの方や高齢者の方の人数は一定程度公表されていますが、全体像については掴みにくい状況になっています。この件については、全体像を行政として把握しておく必要があるのではないかと思います。県の方に全体像については知らせてほしいと要請をしたいと思えます。本日の庁議でもそのような話をさせていただきました。

先週の土日、なせばなる秋まつりが開催されました。今後コロナがなくなるということはないわけですので、日常の生活を取り戻していくという大きな目標がある中で、感染状況を把握しながら開催させていただきました。またこれからの市民へ求める行動については、これまでもずっと感染防止対策をお願いしてきました。場面や状況に応じたマスクの正しい着用や換気の励行、ゼロ密、こまめな手洗い等の基本的な感染防止対策を今後とも徹底してお願いしたいと思えます。同時に、ワクチン接種もお願いしたいと思えます。軽症であることや、副反応が嫌だということで3回目、4回目の接種率が低くなっているのかもしれませんが。先週の土曜から新たな2価ワクチンの接種も始まっていますので、市民の方にご理解をいただきながらワクチン接種も進めていかなければならないと思えます。

2点目は、「国道121号の復旧工事について、国による方針が発表されました。既に市長によるコメントも発表されていますが、地域全体および沿線の観光施設等への影響についてどのように捉えているか伺います。特に道の駅田沢については影響が大きいと考えますが、(道の駅1カ所に限らず)補助金交付等も含めた市としての支援策についてお聞かせください。」という内容です。

すでに発表していますが、9月の中旬から2か月程度でなんとか降雪前には仮橋を設置して、片側通行だけでも確保したいという国の方針が発表されました。一日も早い設置を望みながら、121号線を通ることができるという状況を早めに作っていき

たいと思います。また影響については、会津・喜多方方面から市内の高校に約20名弱が通学しています。現在、会津・喜多方インターから郡山に出て、郡山から福島の高速を通過して米沢に来るといった状況が続いています。このような影響が学生の皆さんとその家庭への負担として出ています。詳細については学校の対応になりますが、学校の負担も大きくなっているということで、遠藤利明代議士に国交省地方整備局の局長ならびに山形河川国道事務所の所長と視察をしていただきました。その際に学生が大変な状況になっているということで、高速道路の料金を減免、または無料にできないかという話を地方整備局の局長にされてきました。当面は、料金をお支払いいただくという流れになりますが、それが大体完了した段階で、後で国の方から支援をいただけるという取り組みだということで、先日お話をいただきました。中央高校などの学校や、県の教育委員会にもご連絡をさせていただきました。学生の時間的な負担は解消することはできませんが、経費的な面で少しでも負担減になるように取り組んでいきたいと思っています。

商工関係においては、市内の産業団体に確認をしたところ、会津若松市に商品等を発送する事業者が福島市から国道115号線を通るルートへ迂回し、往復で100キロ近く遠回りしているという話もありました。このような時間的なロスや燃料費等の負担が増えているなど、物流面での影響が表れています。

観光分野においては、道の駅米沢に駐車している会津ナンバーの車両が大幅に減少していることや、小野川温泉では宿泊のキャンセルが寄せられるなど、本市への観光客の入込の減少が懸念されています。また、通行止め区間に近い道の駅田沢では客足が途絶え、売り上げの大幅な落ち込みから、経営に深刻な影響を与えている状況です。

また本市と歴史的繋がりのある会津若松市、喜多方市とは、国道121号線を通じて交流を深めてきました。広域観光の推進を図るための様々な連携事業の一つとして、現在、3市を含む近県エリアをターゲットとしたラーメン湯治スタンプラリーを実施していますが、周遊ルートの変更などにより参加者が減っており、当面の間、効果的な施策展開ができないなど、観光誘客面での影響が心配されています。

道の駅田沢への支援については、定期的に市職員に向けてそばの頒布会を実施しており、自主販売の活動に協力させていただいています。今後は、さらなる頒布会の拡大や、取り扱っている商品を道の駅米沢などで販売できないかを検討しています。側面的に支援していきたいと思っています。入込客減少の対策としては、現在、県で実施しているやまがた秋旅キャンペーンや、今後、国が実施を予定している全国旅行支援と連携し、米沢に来ていただけるための効果的な情報発信に努めていきたいと思っています。

3点目は、「新病院整備について伺います。2023年秋の開院まで1年となります。工事の進捗状況及び組織の整備について、現段階でどのようになっているかお聞かせください。」という内容です。

新病院の工事の進捗状況ですが、昨年6月に起工式を開催して以降、概ね1年3か月が経過しました。工事の進捗率は、少し古いデータですが6月末日時点で17.1%です。予定が17.3%ですので概ね順調に工事が進められていると思います。今後

の予定ですが、令和5年7月までに建物の工事を完了させたいと思います。その後3か月の準備期間を経て、令和5年11月1日に2病院同時に開院を予定しています。開院後に、既存の建物の解体、駐車場等の外構整備に約1年をかけて、令和6年11月にグランドオープンを迎える予定としています。

三友堂病院との機能分化、医療連携に伴う組織の整備ですが、市立病院の訪問看護ステーションを令和5年3月末で閉所します。すでに議会にも報告をしています。また新病院開院までに、市立病院の人間ドックの機能を三友堂病院に移行する予定としています。なお詳細については、現在、新病院での業務運用計画を策定しており、その中で新たな組織体制の在り方を検討しているという状況です。以上、3点についてご報告をさせていただきました。

○記者

3回目、4回目のワクチン接種率が減っているというお話でしたが、ここの分析として年代別ではどのような状況でしょうか。

○市長

私の手元にはありませんが、担当の方で資料は持っていると思います。必要であれば、後で提示させていただきたいと思います。

○記者

具体的なパーセンテージはなくても、接種率が下がっているという状況に対して分析ができていて、どこにどう何を訴えてワクチン接種を呼び掛けていくのかという部分を聞きたかったのですが、いかがでしょうか。

○市長

一人一人聞き取りをしたわけではありませんが、状況判断として、第7波については軽症化している、副反応が嫌だ、やらないで済むのであれば3回目、4回目はやりたくないという声も聞いています。そういった部分を分析し、理解しています。

○記者

年代別の部分を聞きたかったのは、高齢者の接種率が減っているのか、若年層の接種率が減っているのかによって市の方策も変わってくると思いますが、担当の方で分析はしているのでしょうか。

○市長

年代別に接種率は出ていると思いますが、接種率が高い低いという判断までは分析しているかはわかりません。

○記者

全数把握の形式が変わり、市長は全数把握をしたいとお話ししていましたが、保健所側からは行政に対して米沢市の感染者が何人というのはおりにきていないのでしょうか。

○市長

きていないと担当からは聞いています。これからワクチンも含めたコロナ対策をしていく場合に、この地区内で軽症者であってもどの程度の感染者がいるのかは把握し

ておく必要があるのではないかと思います。先ほど言った通り、保健所や県の方にそのような申し入れをしたいと思います。

○記者

なせばなる秋まつりが終わったばかりですが、実際開催してみてどう見えましたか。

○市長

土曜日は台風の影響で、夜中2時頃大変な大雨でした。その後小雨になり、なんとか開幕セレモニーから始まりましたが、人出を心配していました。しかしながら傘をさして大勢の方々に来ていただきました。日曜日は、列を作って買い求める姿も見受けられました。実行委員会、事務局からの発表で、全体で51000人という数値が出ています。コロナということもあり、土曜日には雨の中ということもありましたが、大勢の方に来ていただいたのかなと嬉しく思っています。

○記者

食のイベントもあり、危機意識の部分も両立していかなければならないと思いますが、その部分についてはどう見えましたか。

○市長

感染対策をしっかりしながらご参加くださいということは申し入れていますので、参加される方々にしっかりと取り組んでいただけたと思います。

○記者

4回目の接種は、当初基礎疾患がある方と65歳以上に限られていたと思いますが、それもあって接種率が上がっていないという認識で間違いないでしょうか。

○市長

4回目の接種については、当初基礎疾患がある方と65歳以上、医療従事者を対象にしていたということで、全体の接種対象者からすると枠が絞られていますので、そういった部分でパーセントが少ないというのは言えるかもしれません。

○記者

4回目については、対象者だけで接種率を縛っているわけではないのでしょうか。

○市長

全体で捉えていると思います。

○記者

それでは低くなるのも仕方ないということですね。

○市長

年代別の接種率ですが、紙でおあげします。すみません、4回目の接種率は対象者の中での数値のようです。

○記者

決して低くはないということでしょうか。

○市長

77%です。どうでしょうか。

○記者

1回目、2回目と同じくらいでしょうか。

○市長

1回目は90%近くあったと思いますので、それに比べると低いのかなと思います。

○記者

全数把握見直しの件ですが、具体的にワクチン接種の面でも把握しておきたいとのことでしたが、自宅療養者の支援などで影響はありましたか。

○市長

現在、軽症者の皆さんについては医療の判断ができていない場合もあると思います。自覚症状のない方も含めて、軽症者がどの程度なのか把握できる状況にはありませんので、これからもコロナ対策を考える場合には、どの程度の市民が感染しているかを把握しておく必要があると思います。そのうえで、色々な対策がとれると思います。県でどこまで情報を開示するかはわかりませんが、そのように考えています。

○記者

県に対する要請のタイミングはいつでしょうか。

○市長

今日の庁議の中で、県や置賜保健所の方に全体の感染者数をわかる範囲内で開示してほしいと担当部の方から話しをするようにということで、今日中には要請していると思います。

○記者

置賜保健所に対してでしょうか。

○市長

はい。保健所は実数がわかっていますので。

○記者

市長として知りたい数字は、米沢市で何人感染しているかということでしょうか。

○市長

どの程度の方が感染しているかという実数は掴んでおく必要があると思います。

○記者

以前だと全体の人数に加えて年代ごとあるいは男女別に出ていましたが、できれば今まで通りの数字が知りたいということでしょうか。

○市長

できれば今まで通りの情報開示をしていただければありがたいなと思います。

○記者

今回簡略化した背景には医療機関の負担を減らすという目的がありましたが、その要望を出すにあたり、医療機関あるいは医師会の先生方との相談や話し合いはあったのでしょうか。

○市長

医師会の先生方それぞれの診療所としては、事務的な煩雑さはなくなったということはあると思います。しかしながら、市内のどこでどの程度感染しているのか、我々

に入ってきている情報、発生状況などは意思疎通を図りながら常に連携をとっておりました。全数把握がなくなり楽になる部分と、全体像が見えていないという不安の部分も医師会の先生方はお持ちだと思います。

○記者

高校の支援という話がありましたが、同じく会津若松と米沢に営業所がある企業に対する具体的な支援は考えていますか。

○市長

現在、そこまでの判断はしていません。今後、災害対応なのでどこまでできるのか検討せざるを得ないとは思いますが、現在、そこまでの判断はしていません。

○記者

学校には補助をする、企業に対しては検討中という学校と企業との差は为什么呢ょうか。

○市長

我々としては、国からの支援を受けられればしっかりと対応したいと思います。

○記者

道の駅田沢について、あの大雨以降は売店のみの営業で、食堂を土日祝日の営業にしてきたと思います。集客や収益の面で前年度との差などの分析はしていますか。

○市長

そこまでの分析をしているかは、現在手元に資料がありませんので、わかりません。

○記者

数字としてデータがあつての支援だと思うのですが、分析はされていないのですか。

○市長

担当の方では分析していると思いますが、手元の資料の中にはありません。必要であれば担当の方に聞いてください。

○記者

ラーメン湯治スタンプラリーなどの話が出ましたが、そういった広域連携について、観光の面であの大雨はどれだけの影響があると思いますか。

○市長

広域的な連携から見れば、相当な影響が出ていると思います。会津ナンバーの車も減っておりますし、小野川の温泉もキャンセルが出ているということですので、金額については承知していませんが、相当な影響が出ていると思います。

○記者

この件について、会津若松市長や喜多方市長とも連携確認は行われていますか。

○市長

先日会津まつりがありましたが、私は行けませんでした。ただ喜多方市長とは話をしています。一日も早い復旧ということで話をしました。

○記者

121号線の関連で米沢中央高校の話が出ましたが、通常料金や経費を払っておい

て、後から減免という形で一部を補助するというのでしょうか。

○市長

まだ詳細はわかっていません。高速料金だけが対象になってしまうという問題もありますが、国交省での協議で決まると思います。ただご連絡をいただいた中には、後でしっかりと負担させていただくという回答をいただいています。

○記者

毎日のように商品を発送している会社などは対象にならないのでしょうか。

○市長

あくまでも通学に限られているようです。

○記者

高速料金だけが対象になるのかということも含めて、詳細はこれからということでしょうか。

○市長

そうです。

○記者

米沢中央高校の件で、高速料金の減免ということでしたが、余分にかかったガソリン代などについては補助の対象になっているのでしょうか。

○市長

当日121号線の現場で話した際に、高速料金だけでもなんとかならないかという遠藤代議士からの話が整備局長にあったわけですので、当面支払いはさせていただいて、清算する形だと聞いておりました。余分にかかった燃料代まで該当するかについては、まだ連絡をいただいております。

○記者

新病院について、資材費については現状いかがでしょうか。

○市長

具体的な話はでてきていません。原材料が値上がりしている中で、契約金額を変更せざるを得ないという状況も出てくる可能性はありますが、まだ出てきていません。

○記者

予算執行が増大する可能性がありますし、工期の懸念もあると思いますがいかがでしょうか。

○市長

工期については影響が出ないように対応していきます。資材の値上がりということですが、資材がなくなっているわけではありませんので、工期については心配しなくてもよいと思います。ただ当初より金額が上がる可能性はありますので、今後のことについてはこれからの対応になると思います。

○記者

要望ですが、市立病院の工事は順調に進んでいるということは議会などでも説明はありますが、三友堂病院の進捗状況が見えないので、可能であれば教えていただきたい

いです。

○市長

市立病院については、来年7月には建物の工事を完了し、11月1日に同時開院予定としておりますので、医療機器などの整備もその段階で終わっているということです。どちらが早い遅いということはあってはならないと思います。現在、若干三友堂病院の方が遅れているという話は聞いていますが、今後ご質問があれば三友堂病院の進捗状況の報告もさせていただきたいと思います。

○記者

安倍元首相の国葬が行われます。国民の中では賛否両論ですが、市長はどのような考えでしょうか。また米沢市として、あるいは市長個人として弔問などは考えていますか。

○市長

政府で決めた国葬ですので、我々一地方自治体の長が国葬に対して何かをすることは差し控えさせていただきます。ただ今までに倣って、市役所のみ半旗を掲げさせていただきます。

○記者

オクトーバー・ラン&ウォークについて、市長は今年何キロ歩きますか。

○市長

昨年の10月は150万歩ぐらい歩いたと思いますので、目標は100万歩を超えるということにしたいと思います。やはりウォークよりもランの方が歩数も距離も伸びますので、今年は頑張りますが、ほどほどに頑張りたいと思います。

○記者

2年前の数字でいうと米沢市は県内1位、全国1位もとっていますが、参加率は市民の1%ぐらいだと思います。参加率拡大のために何か考えていますか。

○市長

増えているとは思いますが、他の自治体よりも参加率は圧倒的に多いと思います。

○記者

市長が掲げる健康長寿のまちづくりに対しての、市長の率先参加なのでしょうか。

○市長

健康長寿と言っている本人が寝ていて歩きもしないということではよくないということで、私は歩いています。

○記者

歩く上で、歩きやすい道の環境整備などについて市としての取り組みはありますか。

○市長

私は暗いうちに歩いていますが、歩道は非常に歩きにくいです。雪国の宿命ですが、道路に傾斜がついているので歩きにくいと思いながら歩いています。道路のでこぼこや穴があいている箇所もあります。パトロールをしているわけではありませんが、運動面だけでなく道路などの環境面にも目を向けるようにしています。

○秘書広報課長

これを持ちまして令和4年度9月の定例記者会見を終了いたします。